

喜界町

図書館だより

3月号



【通算 第273号】

2019（平成31）年3月1日発行

〒891-6201

喜界町大字赤連字樋口前30番地

TEL：0997-65-0962

FAX：0997-65-2523

e-mail:kikailib@town.kikai.lg.jp

ブックスタート

図書館からのプレゼント!

(コットンバッグ・絵本)



赤ちゃんと保護者が、絵本を介して一時の心の触れ合いをつかむ、きっかけづくりのお手伝いをしています。

★（受け取りは0歳児のみ。ブックスタートの文書が届いたのち、図書館にご来館ください。）

親子読書のススメ

昭和35年、鹿児島県立図書館長を務めていた椋鳩十氏が、「教科書以外の本を子どもが20分くらい読むのを母が、かたわらにすわって、静かに聞く」という「母と子の20分間読書」を提唱しました。この運動は全国に波及し、その後「親子20分読書」運動へと発展していきました。椋氏によると「人間というものとは不思議なもので、自分がしゃべったり読んだりしていることを、誰か人にきかれています」と意識すると、へたな読み手でありへたな話し手であると思われないものである。子どもの場合はこの傾向がいっそう強く、親子読書を繰り返すことにより、情緒が安定するとともに読み方も格段に上達し、鑑賞の世界が鋭く深くなるだろう」と述べています。

椋氏の提唱から60年近くが過ぎた今、県内各地でいろいろな親子読書の取り組みが行われています。これから学年末の多忙な時期を迎えますが、忙しい中に時間を見つけて親子で「読み聞かせ」や「親子読書」に親しんでみてはいかがでしょうか。

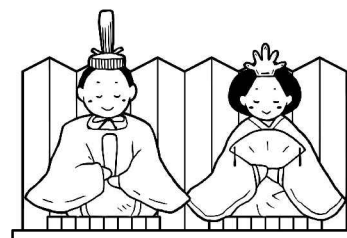


『雛（ひな）祭り』

～絵本もち 膝に来る子よ 雛祭～ 朝妻力

雛祭りは、女の子の成長としあわせを願い祝う行事で、「桃の節句」ともいわれ雛人形や桃の花を飾って祝います。むかしから「桃は邪気（病気などをおこすと考えられる悪い気）をはらう力がある」と考えられていました。

また、喜界町誌によると桃の節句の昔の風習として「床の間や先祖棚に百合の花を生け、田芋餅（ウンムッチー）やヨモギ餅（フツムッチー）を作って先祖棚に供え、家族で食べ、近親者へも贈答する。初めて節句を迎える家では、午後から近親者を招いてお祝いをする。それから、旧暦の3月3日には海へ行く習慣があって、家族総出で潮干狩りにいくものであった。潮干狩りの風習は大正初期になくなった。」と記されています。



おしらせ



本は期間内に返却しましょう!

募集中!

読み聞かせボランティアを募集しています。興味のある方は、図書館へ連絡ください。

『蔵書点検作業が終了しました。』

1月29日(火)から2月7日(木)までの蔵書点検作業では、利用者の皆様には大変不自由をおかけいたしました。おかげさまで、滞りなく点検作業を終えることができました。

喜界町図書館では、今後とも町民の皆様が利用しやすい図書館、町民の皆様の要望にお応えする図書館をめざして、職員一同頑張っ参りたいと思いますので、ご利用の程よろしくお願いたします



第160回 芥川賞・直木賞

芥川賞 「ニムロッド」 (著) 上田岳弘
「1R1分34秒」(著) 町屋良平
直木賞 「宝島」 (著) 真藤順文

「第11回MOE絵本屋さん大賞」決定

大賞 「おしっこちょっぴりもれたろう」

(著) ヨシタケシンスケ

2位 「みえるとかみえないとか」

(著) ヨシタケシンスケ

3位 「ノラネコぐんだんアイスのくにへ」

(著) 工藤ノリコ

4位 「えがないえほん」

(著) B・J・ノヴァク

5位 「けっこんしき」

(著) 鈴木のりたけ

6位 「あめだま」

(著) ペク・ヒナ

7位 「パンのずかん」

(著) 大森裕子

8位 「どしゃぶり」

(著) おーなり由子

9位 「ごみじゃない!」

(著) minchi

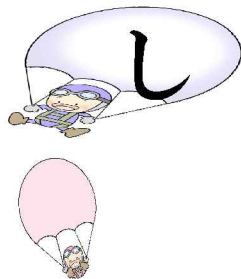
10位 「クマと森のピアノ」

(著) デイビッド・リッチフィールド

★ 10冊とも本館においてありますので、ぜひ手にとってみてください。



《おとなの本》



《こどもの本》

★『麒麟児』冲方丁 著 KADOKAWA

慶応4年。勝海舟は徳川を守るべく、決死の策を練る。官軍を率いる西郷隆盛との和平交渉にすべてを賭けて。幕末の嵐の中で対峙したふたりの「麒麟児」の覚悟と決断を描く歴史長編。

★『本と鍵の季節』米澤穂信 著 集英社

高校2年の図書委員、次郎と詩門は、先輩から亡くなった祖父が遺した金庫の番号を探り当ててほしいと言われ…。図書室に持ち込まれた謎に、ふたりの男子高校生が挑む。

★『ポイント・オメガ』ドン・テリーロ 著 水声社

イラク戦争のブレンだった学者リチャードは、職を解かれサンディエゴ郊外の砂漠にやってくる。そこへ彼の経験を映画に撮ろうとジムが訪ねてきて…。

アメリカの光と闇、人間精神の孤独を穿つ。

★『ピーク』堂場瞬一 著 朝日新聞出版

★『図解 誰でもできる石積み入門』

真田純子 著 農山漁村文化協会

★『絵でわかる生態系のしくみ』

鷺谷いづみ 著 後藤章 絵 講談社

★『ゆかいな床井くん』戸森しるこ 著 講談社

床井くんは、6年生のクラスがえて、最初に暦のとなりの席になった男の子。ユーモアがあって、考えた方のセンスがよくて、ちょっと変わっていて…。

★『SFショートストーリー』日下三蔵 編 汐文社

主に昭和の時代に発表されたSFの名作を、テーマ別に紹介。ロボット編では、筒井康隆「お紺昇天」など、ロボットSFの傑作全5編を収録する。

★『ゆきのように』いもとようこ 文・絵 金の星社

ある村に、玄同先生というお医者さんがいた。寒い冬の晩、玄同先生が寝床についていると、若者が戸を叩き、お産で苦しむ女房を助けてほしいと必死に頼んできた。山奥にある若者の家でお産に立ち会おうと…。

★『金栗四三 日本人初のオリンピック選手』

佐野慎輔 文 しちみ楼 絵 小峰書店

★『わたしを決めつけないで』

小林深雪 落合由佳 著 講談社

★『ごろべえもののけのくにへいく』

おおもやすお作・絵 童心社



1月の貸出ベストリーダー3



一般書			児童書			雑誌		
1	琉球の伝承文化を歩く3（喜界島の伝説・昔話）		1	いっぺんやってみたかってん	絵本	1	サライ 1月号	
2	男たちの船出 伊東 潤 /著			いただきますあそび	絵本			
3	御松茸騒動	朝井 まかて /著		地下100かいだてのいえ	絵本		週刊文春 12/27号	
	死ぬこと以外かすり傷	箕輪 厚介 /著		みえるとかみえないとか	絵本		文藝春秋 11月号	
	常設展示室	原田 マハ /著						
	立ち直る力	辻 仁成 /著						

3月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	1	2
	休館日				ブックス スタートお はなし会	ひなまつ りおはな し会
3	4	5	6	7	8	9
	休館日			資料 休館日		おはなし 会
10	11	12	13	14	15	16
	休館日			団体貸出 (各 保・てくてく・子 支援・早小児童) 回収 (幼)	子育て支 援来館	おはなし 会
17	18	19	20	21	22	23
	休館日					おはなし 会
24/31	25	26	27	28	29	30
	休館日					おはなし 会

※ は、休館日です
《毎週月曜日(祝日の時は翌日)・第1木曜日》
・開館時間 午前10時～午後6時

1月統計	貸出冊数	H30年度合計
	6,054 冊	47,427 冊
開館日数 (21日)	来館者数	H30年度合計
	1,238 名	12,768 名

おはなし会・ミニ映画

図書館2階で
毎週土曜日 午後2時～2時40分

★ 今月のおはなし会はひなまつり
おはなし会です。

